

# Linux セキュリティ フルエディション 導入ガイド

## (集中管理モード)

### はじめに

本書では、「エフセキュア Linux セキュリティ フルエディション」のインストール方法と、初期設定を行うべき項目等について説明します。

### 1. 事前準備

使用する OS に合わせ、事前に以下 URL をご参照いただき必要なパッケージのインストールを行ってください。

<https://community.f-secure.com/t5/ビジネスセキュリティ/F-Secure-Linux-セキュリティ-11/ta-p/91735>

- ✓ Prelink を使うディストリビューション  
Prelink が有効なディストリビューションの場合、完全性検査を利用することができません。

## 2. インストール

root ユーザで、以下の手順を実行します。

1. 製品パッケージを解凍します。(xxの部分には実際のバージョン番号やビルド番号が入ります)  
# tar zxvf f-secure-linux-security-11.xx.xx-rtm.tar.gz
2. インストーラを実行します。  
# cd f-secure-linux-security-11.xx.xx-rtm  
# ./f-secure-linux-security-11.xx.xx
3. 利用許諾書の表示を促すメッセージが表示されるので、Enter キーを押して表示します。  
You must accept following F-Secure license agreement  
to install F-Secure Linux Security.  
Press enter to view license agreement.
4. スペースキー等で利用許諾書を読みすすめ、同意する場合は、yes を入力します。  
Do you accept this license agreement?
5. 製品がインストールまでしばらくお待ちください。  
Installing RPM packages, please wait...
6. 以下のメッセージが表示されれば、インストールは成功です。  
Installation completed successfully.  
Starting F-Secure Linux Security modules (/etc/init.d/fsma start)  
  
To configure the product, please run /opt/f-secure/fsav/fsav-config.  
  
If you want to completely disable some of the product modules, please  
run /opt/f-secure/fsav/sbin/fschooser.

以上でインストールは完了です。

注：インストール直後からファイアウォールが有効になります。既存の iptables のファイアウォールルールを使用したい場合には、2.のインストーラ実行時に「nofirewall」オプションを付けて実行してください。また、初期設定にて fsav-config 実行時にも同様に「nofirewall」オプションを付けて実行する必要があります。

### 3. 初期設定

インストールが完了したら、`/opt/f-secure/fsav/fsav-config` を実行し、初期設定を行うことをお勧め致します。

`fsav-config` では以下の設定に関するダイアログが表示されます。

- WebUI の言語設定。

日本語を選ぶ場合は、2 を入力してください。

Select language to use in Web User Interface

- [1] English (default)
- [2] Japanese
- [3] German

Please select 1, 2, or 3 [1]:

- 管理モードの設定

今回は集中管理モードを想定しているため、M を入力してください。

Do you want to configure the product to run as standalone, Policy Manager managed or PSB managed?

Select [s]tandalone, Policy [M]anager managed or [P]SB managed [standalone]:

- ポリシーマネージャサーバの設定

ポリシーマネージャサーバのアドレスを入力します

Address of F-Secure Policy Manager Server: [http://localhost]:

鍵ファイルの保存パスを入力します。

鍵ファイルは、予めポリシーマネージャからエクスポートします。

鍵ファイルのエクスポートの方法は、ポリシーマネージャ管理者ガイドの「署名鍵をエクスポート/インポートする」の項目をご参照ください。

Give the admin.pub file location [/root/admin.pub]:

- キーコードの入力

製品のキーコードを入力してください。

キーコードを入力しない場合、試用版として動作します。

Please enter the keycode you have received with your purchase of F-Secure Security Platform.

keycode:

- WebUI のリモートアクセスの許可

WebUI にリモート PC から接続することを許可する場合は、yes を入力してください。

許可しない場合は、no を入力してください。なお、リモート接続は https プロトコルでポート 28082 を使用します。

Allow remote access to the web user interface? [no]

- ローカルからの WebUI 接続での認証設定

ローカルでの WebUI 接続を行った際に、ローカルアカウントによる認証を行わない場合は、**yes** を入力してください。認証を行う場合は、**no** を入力してください。

- ・ 認証に使用するアカウントの設定

リモート接続を行う場合、あるいはローカル接続で認証を行う設定にした場合、認証に使用するローカルアカウントを設定します。**root** 以外を指定してください。

Please enter the user name who is allowed to use the web user interface.

User name (must be non-root) [nobody]:

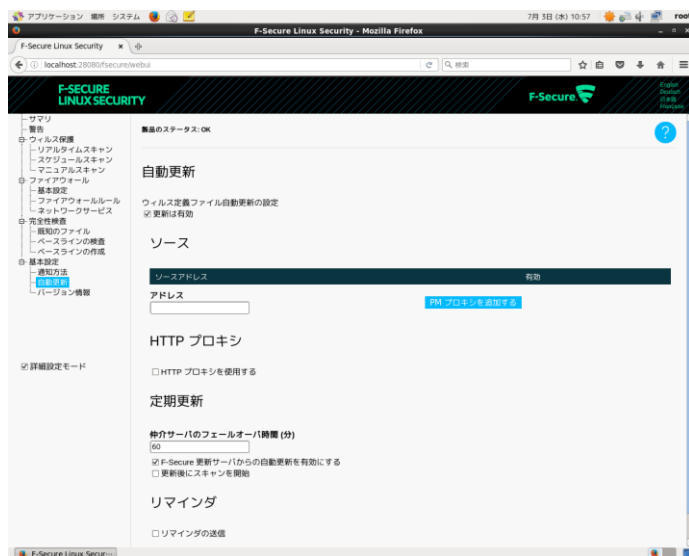
## 4. パターンファイル更新の設定

パターンファイルの更新は、HTTP プロトコルを使用し、インターネット経由で自動的に行われます。インターネットの直接接続できない環境の場合は、以下のような設定を行う必要があります。

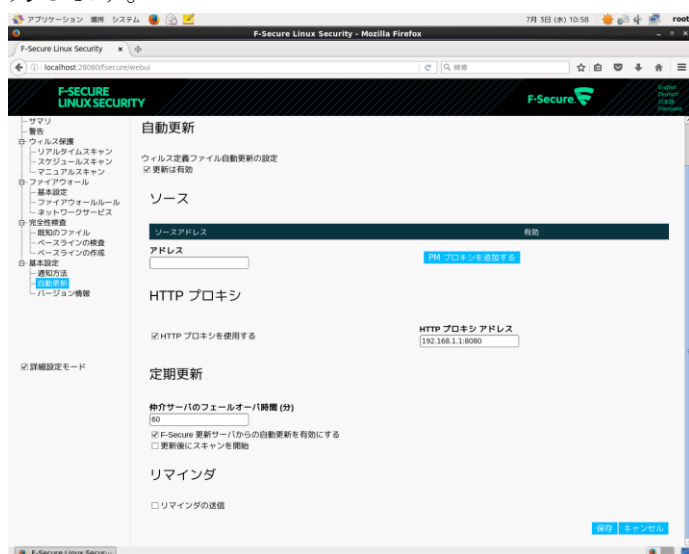
### 4.1 プロキシを経由してインターネット接続を行う設定

インターネットに接続する場合に、プロキシを経由する必要がある場合、以下の設定を行ってください。

1. WebUI の画面左下にある「詳細設定モード」にチェックを入れ、メニューから自動更新を選択します。



2. 右ペインの「HTTP プロキシ」の項目で、HTTP プロキシを使用するにチェックを入れ、HTTP プロキシアドレスの欄に、プロキシサーバのアドレスとポート番号を入力します。



3. 入力後、WebUI 画面右下の「保存」ボタンをクリックしてください。

## 4.2 パターンファイル更新用プログラムを利用する方法

インターネットに接続できない端末の場合、パターンファイル更新用プログラム (fsdbupdate9.run) でパターンファイルを更新することが可能です。パターンファイル更新用プログラムは、以下の URL からダウンロードが可能です。

<http://download.f-secure.com/latest/fsdbupdate9.run>

ダウンロードしたファイルを、パターンファイルを更新したい端末にコピーし、以下のコマンドを実行してください。

```
# dbupdate fsdbupdate9.run
```

**● 免責**

本書に記載された内容は、情報の提供だけを目的としています。したがって本書を用いた運用は必ずお客様自身の責任と判断により行ってください。これらの情報の運用の結果についてはエフセキュア株式会社はいかなる責任も負いません。本書の作成にあたっては細心の注意を払っていますが、記述に誤りや欠落があってもエフセキュア株式会社はいかなる責任も負わないものとします。

本書は 2017 年 7 月時点の情報を基に記述されており、ご利用時に変更されている場合があります。

**● 商標**

エフセキュア及び三角マークは、F-Secure Corporation の登録商標です。また、エフセキュアの製品名、マーク、ロゴは同社の商標または登録商標です。その他、記載されている、製品名、社名は各社の商標または登録商標です。

以上